

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370400626
法人名	社会福祉法人 杏風会
事業所名	白寿園グループホーム
訪問調査日	平成 21年 2月 28日
評価確定日	平成 21年 3月 27日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 3月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	4370400626
法人名	社会福祉法人 杏風会
事業所名	白寿園グループホーム
所在地 (電話番号)	熊本県荒尾市一部2157-16番地 (電話) 0968-68-7339

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成21年2月28日

【情報提供票より】(平成20年 10月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年 7月 8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数	計 18 人
職員数	13 人	常勤 3人, 非常勤 10人, 常勤換算 13人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋平屋造り	
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低 77 歳	最高 102 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鴻江病院 坂田歯科医院 山村皮膚科医院 西山眼科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホームを母体とし、通所介護や訪問介護等、施設及び在宅の高齢者支援を長年展開してきており、その蓄積がホームのケアに存分に活かされている。近年、認知症ケアの科学的解明が進んできているが、新しい知識やケア方法もいち早く学び取り、日々のケアに活用する努力が続けられている。入居者個々の思いや身体状態を深く理解する為に、独自のアセスメントツールを工夫しており、また、全職員が一貫して適切なケアを提供できるよう、具体的に詳細なケアプランが作成されている。ホーム内に広がる笑い声や、入居者の穏やかで伸びやかな暮らしぶりに、職員のたゆまぬ努力の成果を感じた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回提示された努力課題は、職員間で検討を重ね、全項目改善に向けた取り組みが見られた。休刊していたホーム便りは、入居者の暮らしぶりを写真入りで個別に作成、毎月面会時に手渡し、時には自宅に配布して回るなど、熱心に取り組んでいる。また、災害時の地域住民との協力体制では、指導力のある住民に働きかけ、住民参加の訓練が実現している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員がそれぞれに自己評価を行い、話し合いが行われていた。自らを振り返ることで気づきがあり、課題を見出し、一層のサービス向上に向けた意欲が高まっている。外部評価に伴う自己評価だけでなく、毎年度の事業計画作成時や、半年毎の自己目標の評価など、ケアの振り返りを行う機会が多く、上質なサービス提供に繋がっている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は和やかな雰囲気で行われ、ホームや地域の状況、家族の要望等情報が共有でき、互いに協力し合う関係が築かれている。市職員や地域の関連機関からの参加があり、家族会で市職員から制度について話してもらい、認知症の啓蒙を地域に広げる方法など、具体的な活動に繋がっている。地域の情報はホームの生活に活かされ、協力を得るヒントにもなっている。討議はホームの事だけに留まらず、市全体を見据えた認知症ケアのネットワーク作りにも及び、活発な意見交換が行われている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居者・家族の思いを大切にしており、笑顔での対応や温かい声かけなど、意見や不満等を言い出しやすい雰囲気作り努力している事が伺えた。要望等は全職員で検討を重ね、家族が満足できる対策を講じており、誠実な対応が行われている。家族アンケートでは全員が「柔軟な対応がある」「満足している」と回答しており、コメントには感謝の言葉が多数寄せられていた。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 挨拶や散歩時のゴミ拾い、地域行事への参加、地域に出向いての啓蒙活動等、日常的な触れ合いが持たれている。地域住民からは花や野菜をいただいたり、入居者の姿を見かけたら見守るなど、多様な協力と支援を得ている。小・中学生、高校生の職場体験や実習を受け入れ、子供たちとの交流も図られている。また、認知症ケアのネットワーク作りにも取り組んでおり、地域との連携が意欲的に活動している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には、入居者の尊厳、個別性を大切にした支援が謳われ、キャッチフレーズに、地域に溶け込んだゆったりとした暮らしを挙げて、ケアの基本としている。地域の中でその人らしく生活することを支援していきたいという職員の思いが、反映された内容となっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表者は折に触れて理念・方針を職員に伝えており、理念に基づく年度計画が作成されている。計画は、職員各自が当年度の達成度を評価し、ホーム長や主任との面接を行うなど、全職員の意見を集約し作成されている。その過程で理念の理解、浸透が深まると共に、実践への意欲も高まっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者と一緒に周辺道路のゴミ拾いや掃除を継続。職員の出勤時や入居者の外出時には、気軽に挨拶を交わしており、近隣住民とは良好な関係が築かれている。近隣から花や野菜のプレゼントがあり、入居者が1人で歩いていると、ホームへの道を教えたりと、温かい支援が得られている。また、地域の行事や公民館活動に積極的に参加し、交流を深めている。更には、地域社会に向けた「認知症ケア研修会」の定期開催に法人全体で尽力しており、地域と共に認知症の高齢者を支援していこうとする熱い思い、高い志が感じ取れた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を踏まえて、全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価の過程で、それぞれにケアを振り返ることで新たな気づきがあり、話し合いが行われている。ホーム便りの再開や災害訓練での地域の協力体制作りなど、前年度外部評価で得た課題は、職員間で何度も検討、試行し、最善の方法を見出すなど、意欲的に取り組んでいることが確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には入居者・家族代表各2名、町内会長等地域から3名、市職員、地域包括支援センター、協力医療機関などが参加し、活発な意見・情報交換が行われている。外部評価結果やホームの活動状況の報告、協力依頼だけでなく、認知症への理解を地域に広めていく活動も話し合われている。子供達に絵本等を使って認知症の話をし、関心を持たせ、家庭で話題に挙がる事でその親にも理解を広げようという企画は、次年度実施段階に入っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や市役所に出向いての相談・情報交換、荒尾市グループホーム連絡会の会議や研修会への市職員の参加など、様々な機会を捉えて交流・連携を図っている。グループホームや認知症の現状を、市職員に理解してもらい働きかけを行い、ホームの様々な活動に協力を得られる関係が築かれている。家族会で、市職員に制度等について説明ををしてもらう企画も進行中である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時には、生活の様子や心身の状態、金銭管理状況を、個別アルバムやケース記録、金銭出納帳を提示しながら詳細に報告している。毎月のホーム便りは入居者一人ひとりに作成、スナップ写真を豊富に掲載し、暮らしぶりが一目で分かるようになっている。毎月の支払いにはホームに来てもらうようにし、家族参加の行事を企画、訪問の機会を多くするよう工夫されていた。訪れやすい雰囲気作りにも努力しており、毎日のように訪れる家族もあるなど、訪問が多く、日々コミュニケーションが図られている。心身状態の些細な変化も随時電話連絡が行なわれ、家族アンケートでも、「親身に相談に乗ってくれる」「よく報告してもらっている」「安心」など、感謝の言葉が多数見られた。	○	休止していたホーム便りの再開には、多忙な業務の中で継続可能な方法や、家族に喜んでもらえる内容にと、工夫の跡が感じられた。欲を言えば、写真に日付やエピソード等をもう少し添えると、一層分かりやすく、身近に感じる事ができると思われ、もう一步の工夫を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、家族参加の行事、訪問時など、コミュニケーションの機会が多く、意見・要望を言い出しやすい関係も築かれている。おやつ時の訪問には、「入居者と共におやつを楽しみたい」という希望があり、余分におやつを用意している。「職員を名前で呼びたいので名札を」には、危険のない名札等検討したが、家庭的雰囲気の名札はそぐわないのではないかと判断。代わりに職員の写真と名前を見やすい場所に掲示することで、家族の納得を得ている。意見・要望があれば必ず検討し、サービスに反映しており、入居者・家族に喜んでほしいという強い思いが感じられた。	○	職員の写真と名前の掲示では、その日の職員の業務内容まで分かる表示にすれば、希望等を伝え易いのではないかと、内容の検討を継続しており、更に要望を言い出しやすくなると思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の動揺を考慮し、異動は行わない方針。相談しやすい人間関係、負担にならない業務配置等、働きやすい職場環境を整え、離職を極力抑えるよう努めている。開設以来の職員が多く、3年以上の勤務者が90%を占めている。新規採用時は1ヶ月間の研修期間を設け、介護の基礎知識や技術等の教育、法人内の他事業所での実習など、徹底した研修を実施し、入居者への影響を最小限に止めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の段階に応じて、OJTでのきめ細かい指導や、法人内研修、グループホーム連絡会の勉強会、研究発表等、種々の研修への参加を積極的に実施している。県や全国レベルの研修会、認知症ケア学会にもできるかぎり参加させるなど、職員育成に力が注がれている。市のグループホーム連絡会の勉強会は、2ヶ月に1回開催され、毎回のテーマについて自分の意見を持って参加するようになっており、学びを深める良い機会となっている。代表者の高い介護観と熱意が職員に伝わり、キャリアアップの意識が高く、資質の向上に繋がっている。資格取得を目指す職員には、互いに協力しあい、勉強しやすい環境が作られている。	○	内部・外部研修の参加は、各段階に応じて拡充していきたいと考えており、職員の一層の資質向上が期待できる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会では同業者との意見交換を積極的に行い、情報を共有、ネットワークを広げている。他のグループホームからの実習を受け入れたり、地域の介護職者で結成されたキャラバンメイト活動に意欲的に参加している。グループホームだけでなく、老人保健施設等介護関連の事業所に出向き、認知症について話をすることもあり、交流が活発に行われている。交流を通して互いに学び合い、各自の資質やサービスの向上に繋がっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学やショートステイを体験してもらい、職員や他の入居者、ホームの雰囲気馴染んでからの入居を勧めている。初期面接や体験の機会に本人・家族から情報収集し、また、これまで関わった介護サービス事業所、かかりつけ医等からも情報を得、初期の介護計画を作成し、円滑な導入に努めている。入居後1週間はモニタリングを密に行い、入居者の思いや生活スタイルの理解を深め、初期計画を見直し、より良いケアの提供を心がけている。入居者がホームに馴染むまでは、状況に応じて毎日の面会や電話、外出など、家族との協力・連携を図っている。他の入居者との関係作りに、相性を見極めたり、交流の橋渡しをするなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の経験や生活の知恵を活かしながら、互いに助け合い、補い合う暮らしが築かれている。若い職員に昔の歌を教えたり、料理が苦手の職員にさりげなく手助けをする入居者の姿があった。新採用の職員をそっとフォローする入居者もあり、家族のような温かい関係が感じられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護場面でその都度意向を確認する声かけがあり、言葉での意思表示が困難な人には、表情やしぐさから思いを察知している。毎日の個別ケア記録に、24時間の言動の様子や睡眠状態が詳細に記録しており、その記録を基に数ヶ月の状態変化を読み取り、集約して記録に残している。また、不穏時の状況を記録するチェック表もあり、不穏の原因となる周囲の状況やその時の気持ちが推察でき、適切な対応が実施できている。記録することで職員の気づきが多くなり、入居者理解が深まっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントはセンター方式やICFを取り入れた方法など、個別に適した方法を考案し、詳細な情報からの確かな課題分析が行われている。家族訪問時の話し合いや、本人・家族、職員を交えてのカンファレンスで意見を出し合い、課題を確認し、支援方法が決定されている。介護計画は詳しい内容が記載されており、計画に沿って全職員が統一した援助を実施でき、入居者も安心した暮らしが継続できていると思われる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しの他、状態の変化に応じて随時見直しが実施されている。日々の細やかな観察と記録によって、状態変化を早期に発見でき、常に適切なケアが提供できるように見直されている。アセスメントツールの独自の工夫や、情報の詳細な記録など、より良いケアを目指した努力の跡が伺えた。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院治療が必要となった場合は、私物の預かりや退院後の受け入れを確保し、安心して療養に専念できるようにしている。入院先に頻回に訪れ、生活支援と共に精神面の安定も図っている。入院中の居室は、ショートステイを受け入れ、在宅の要介護者の支援に活用している。ショートステイ中の様子は、訪問介護や通所介護等、通常利用されている事業所に伝え、今後の支援方法を協議するなど、継続した取り組みが見られた。帰宅願望や外出希望には、家族と連携を取りながら家庭訪問や外出に同行、個別の対応が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望で決定しているが、ほとんどの入居者が母体の病院をかかりつけ医にしている。母体病院からは週2回の定期往診があり、微細な症状も報告、早期の対応で疾病を防止している。受診には家族と共に付き添い、情報提供し、治療方針に沿ったケアを行っている。かかりつけ医との協力関係が築かれており、日々の健康管理や急変時の対応に、密接な連携が実施されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為を必要とする終末期は、ホームでできることに限界はあるが、本人・家族の希望に沿って、できる限り対応していく方針。重度化を直視したくない家族の心情を配慮し、負担にならないような機会を捉えて「一緒に考えていきましょう」と声かけしており、段階に応じて医師を交えた話し合いが進められている。看取り間近となり病院に転院した場合も、家族はホームを訪れ、話を聴いてもらうことで力づけられている。家族がいない人には、度々面会に行き、寂しい思いをさせないような配慮も行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりに応じた声かけ、対応が見られ、方言を交えた言葉使いには温かさが感じられた。親密な関係であっても敬語が使われ、入居者の人格が尊重されていることが感じ取れた。トイレは小声で誘っているが、難聴の人には声が大きくなるため「手を洗いに行きましょう」と、他の人に察知されない配慮もみられた。面会簿は個別に作成し、プライバシー保護の工夫が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを尊重したケアが実施されている。起床や就寝時間は希望に合わせ、朝寝坊の人には遅い朝食が用意されていた。夜間のトイレは睡眠状態を確認し、タイミングを見計らった声かけが行われ、不眠の人には眠剤を使わず、話をしたり、添い寝で眠りに誘っている。日中は、職員が音読する新聞の内容に耳を傾ける数人のグループ、ソファで一人のんびり過ごす人、歌を楽しむ人などの姿が見られ、思い思いにゆったりとした生活であることが感じ取れた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を取り入れ、旬の食材で季節感のある食事が提供されている。菜園の収穫物や近所からの頂き物は、入居者に見せ、調理法を教えてもらっている。干し柿や味噌、らっきょう等は入居者と共に手作りしている。行事食や献立によっては、ビールや日本酒、自分たちで作った果実酒が供され、誕生会には家族を招くなど、食事を楽しんでもらう努力がみられた。調理や後片づけには、入居者の参加を心がけているが、重度化が進み、できる人が減少している。食事は談笑の中で進み、職員のさりげない介助が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に沿って、毎日、何時でも入浴でき、湯加減や入浴時間も体調が許す限り、好みに応じている。季節毎にバラの花、ゆず、菖蒲、ダイダイ湯など演出し、介助は声かけから最後まで同じ職員が付き添って、ゆっくりした入浴を楽しんでもらっている。入浴拒否の人には、医師の往診日に「診察があるから、入りましょう」など声かけを工夫し、タイミングを見て誘い、清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月の誕生会、バーベキュー、クリスマス等の行事は家族も参加し、大きな楽しみとなっている。機会を捉え、喜んでもらえる行事を考案しており、昨年はボランティアの協力を依頼、カクテルドレスやタキシードでの記念撮影を実施した。写真には生き生きとした表情、背筋を伸ばした姿が見られ、大満足の様子が伺えた。入居者の力を引き出す支援を行い、好みや得意分野に合わせ、それぞれに役割が見出されていた。池の鯉の餌やりや洗濯物たたみ、食事の後片づけなど活躍の場があり、張りのある生活が得られている。多動で不穏傾向があった人は、掃除をしてもらうようになってから不穏な行動が減少してきており、職員の見守る中、自由にのびのびとモップがけやほうきがけに精を出す姿が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節折々の花見や初詣などに外出しているが、天候に左右され、重度化に伴い転倒等のリスクが大きくなってきており、全員での外出や遠出の機会は減少傾向にある。1～2名の入居者を連れての散歩やドライブを心がけ、気分転換を図っている。敷地内の広い日本庭園に遊歩道が設けてあり、歩行能力が低下している人も職員が付き添い、気軽に散歩を楽しまれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、自由に出入りできるようにしている。両ユニットのキッチンとリビングから、玄関を見渡せる構造になっており、入居者の姿が見えると声をかけ、付き添ったり、後ろから見守るなどで安全を確保している。建物周囲にセンサーが設置され、近隣住民の協力関係も築かれている。3分毎の所在確認を心がけ、無断外出による事故防止を図りながら、入居者の外出希望に沿う支援が実施されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網による連絡訓練は抜き打ちで実施。昼間と夜間想定火災訓練は、発煙筒を焚いて本番さながらに行い、火元場所に応じた避難経路の確認を行っている。母体の病院や特養の協力体制はもとより、地域の協力を働きかけ、近隣住民も参加する共同訓練や地域の避難所に誘導する避難訓練も実施されている。居室の扉に掛かっているネームプレートに、入居者の能力に応じた避難方法の識別シールを貼り、また、避難が済んだ人のネームプレートは裏返すなど、安全確実な避難方法を工夫しており、防災対策に熱心に取り組んでいることが伺えた。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスを考慮し、茶碗の大きさや盛り付けで個々に応じたカロリーコントロールが行われている。高齢者は脱水に陥りやすいことに留意し、起床時やおやつ、毎食時、入浴後、就寝前などに水分補給を促している。夜間の飲水希望者には、居室にポットや保温コップを用意し、いつでも飲める配慮がみられた。毎日の食事・水分摂取量の確認、毎月の体重測定を行い、変動が見られる場合は個別記録に記載し、健康管理も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見事な日本庭園、高級感漂う建物、共用空間には上質な家具や置物が惜しげもなく置かれており、入居者を尊重し、心豊かな生活を送ってもらいたいという代表者・職員の思いが伝わってくる。2ユニットは、和風と洋風に趣が異なり、それぞれにマッチしたインテリアが施され、花柄が手書きされた壁やカーテンの色調は温かみを感じられた。廊下には遊び心をくすぐる置物、和室には野点の道具やおひな様、至る所に花が飾られ、癒される雰囲気を作られている。ウッドデッキや廊下にイスが置いてあり、日向ぼっこや一人静かに過ごす場所になっており、掃除も行き届き、快適で居心地良い生活空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に「此处は自分の居場所になる」と話し、馴染みの物を持ち込むよう家族に働きかけている。仏壇や使い慣れた家具、好きな人形や小物、テレビ等が置かれ、その人らしい居室になっており、働きかけの成果と思われる。家族写真や思い出の品に囲まれ、家族との絆を感じつつ、ゆっくりと落ち着いた暮らしができています。ある入居者が言われた「毎朝この窓からすばらしい庭園を眺めて、1日が始まる。此处に来てようやく落ち着いて暮らせるようになった」の言葉が、印象に残った。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	白寿園グループホーム
(ユニット名)	和風棟
所在地 (県・市町村名)	熊本県荒尾市
記入者名 (管理者)	八坂 妙子
記入日	平成21年 1月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表者が、全従業員に理念・方針を伝え、達成状況に応じてホーム長を中心として、毎年度の運営方針に基づく事業計画を作成し、展開を通して具現化を図っています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全従業員が、理念をもとに毎年各々の到達レベルにより目標を掲げ、管理者とともに達成状況を相互確認しながら、具体的な場面で説明を追加して共有・浸透を図り、体現に努めています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営理念を玄関に掲示し、パンフレットや重要事項説明書に記載するとともに、家族懇談会や利用希望・見学の際に具体的に説明し、広報誌やホームページへも掲載しています。利用者に対し、体現を図っています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の往来や散歩・外出の際などには、気軽にあいさつを交わし、花をいただいたりしていますが、セキュリティの観点から立ち寄りに関しては、一部の方のみになっている状況です	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区公民館の活動や地域の文化行事などにも積極的に参加し、地元の方々との交流に努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員や地域の認知症に関するご相談に応じ、対応方法や社会資源の紹介、連絡を行うと共に、キャラバンメイト活動を通して、認知症に関する地域ケア力の向上に努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一連のプロセスを通して、気づきや自浄作用が高められるよう努め、指摘や助言に関しては、代表や職員と共に検討し、改善に努めています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	隔月で、利用者代表2名、ご家族代表2名、地域代表3名、市町村職員、地域包括支援センター長、協力医療機関の在宅支援部長、グループホーム代表及び管理者2名が集い、和やかな中にも活発な意見・情報交換が行われ、事業所運営にとどまらず、地域作りに関しても討議を重ね、サービスの向上に取り組んでいます。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所運営に関する相談のみならず、市内グループホーム連絡会の会議や研修を実施し、市町村の担当者と共に、より安全な環境整備やサービスの質の平準化及び向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族懇談会の場で紹介するとともに、必要な人には提出書類などを手渡し、個別に具体的な説明を行っております。現段階では、家族間での協議により活用がなされていない状況です。職員の実践を通して必要性や有効性の実証を図っています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について講師を担ったり、実例を通して具体的に学び合い、地域包括支援センターの役割をご家族や地域の方々へ紹介するなど、事業所内を含めて虐待の防止に取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい文章で明記し、入居時には具体的に説明を行い、理解・納得が得られるよう配慮しています。また、疑問点や不安に関しても対面や電話にて迅速に対応し、解決・改善できるように支援しております	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表に参加していただき、意見が表せる機会を設け、運営に反映しています。また、日常的にも『困った事や嫌な事はありませんか』と投げかけ、気軽に表現できるように努めています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や家族懇談会の場で詳細な説明や記録(個別日誌や金銭出納帳)を通して確認していただくと共に、グループホームだよりや個別アルバム・マイカレンダーなどで視覚的にも分かりやすく定期的に報告しております。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも相談できる雰囲気づくりに努め、運営推進会議での意見交換や家族懇談会には代表も臨席し、ご意見・ご要望にも即応できるように取り組んでおります。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年、個別面接や業務カンファレンス等での意見や提案をホーム長が集約し、代表への橋渡しや会議の場での検討を経て、具現化を図っております。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務時間の調整や人員体制及び業務内容などの変更・改善により、ゆとりを持って対応できるよう随時検討を重ねております。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	働きやすい職場環境づくりに努めると共に、異動に伴うダメージが最小限度にとどめられるよう、引継の期間を一ヶ月程度設けたり、試行期間中の反応を考慮しながら必要最低限度行っております。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の研修は体系づけられ、法人内研修・市グループホーム連絡会勉強会や種々の研究発表・研修の場に積極的に参加すると共に、認知症ケア雑誌への事例提供による振り返りや、資格取得・キャリアアップなどを通して資質やケア力の向上に努めています。	○ 各段階に応じたフローアップ研修に関しては、法人内外の研修の機会をとらえて研鑽を図っていますが、一部のため、全段階に拡充していきたいと考えています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム職員との勉強会や交流会には、非常勤職員も含めて参加し、県や全国グループホーム協会や認知症ケア学会にも最大限出席しながら、情報の共有・資質の向上に取り組んでいます。また、希望に応じ他のグループホームからの実習も受け入れたり、有明地域における相互のキャラバンメイト活動を通してサービスの質の向上に努めております。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の業務上の悩みは随時協議し、業務カンファレンスや全体会議で改善を図り、大きな変更の際には、必ず試行期間を設け、有用性を検証した上で実施し、ストレスの軽減に努めています。また、職員それぞれの特性や個性を生かして、補い合っております。	○ 今後は、職員対象のレクリエーションや軽スポーツの実施など余暇を利用した福利厚生面での充実も図っていきたくと考えています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	半年ごとに上司による個人面談を行い、個別の課題を改善・解決すると共に、資格取得等ステップアップが図れるようバックアップしております。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期面接時、入居時も雑談を交えながらご本人がリラックスされた状態でどの様な生活を望まれているのかをご家族や関係者と協力しながら受け止める努力をしております。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前にご本人・ご家族・関係者と共に見学や体験の機会を設け、ご本人と同席では表現しにくい内容に関しては、別途ゆったりとした時間をもうけて、受け止められるよう努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人・ご家族と面談し、生活特性を把握した上で主治医や担当ケアマネジャー・サービス提供事業者などからの情報も参考にしてアセスメントを行い、緊急性の高いケース等に関しては他のサービス(市外も含めて)の検討や連絡・紹介をしております。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個々の状況に応じて毎日の面会や電話・外出・外泊など心の安定が図れるようご家族・関係者と協力しています。また、他の入居者との交流が円滑に図れるよう、相性を見極めたり、交流の橋渡しを場面にに応じて行い、なじみやすい雰囲気づくりに努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩としての意見や経験を伺ったり、様々な生活上の知恵や習わし・技術など幅広く教えていただきながら、助け合い、補い合って、喜びを共にし、悲しみは半減できるような関係づくりに努めています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は、本人を支えるチームの一員であることを初期面接時から入居後の様々な段階でお伝えし、ご家族の抱えておられる介護以外の悩みにも耳を傾け、必要な情報を提供したり、ご家族の文化活動にも参加しながら、チーム力の向上に努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族一人一人の思いに、それぞれの意味や積み重ねがあることを受け止め、それぞれの立場を理解し、その努力を評価すると共に、ご家族だからこそ出来ること出来ないことを個別のケースにより助言し、望ましい関係づくりを模索していております。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊に制約はなく、面談やくつろいで過ごせる場所が、居室の他に居間・畳コーナー・ウッドデッキ・庭など多彩にあり、地域や法人主催の行事にも共に参加され、楽しんでいただいています。また、亡くなられた入居者のご家族と入居者と共に交流を重ね、思い出や喜怒哀楽を共有していております。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ゆっくりと交流できる場所や場面づくりを設定し、あたたかく見守ったり、橋渡しを行って相互交流の深まりを援助すると共に、お一人お一人の得意分野が発揮され、周囲の方からも評価され、個々が生かされながらグループダイナミクスがプラスに向かうよう支援しております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や転居に関しては、安心して療養出来るよう紹介や確保を支援し、転居にかかわる援助や退居後の訪問も行っております。また、死去による利用終了後も、グリーフケアを必要とされるケースを中心に命日などの折々に交流を重ねております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の思いや暮らし方の希望を伺ったり、日々の場面場面で自己選択や自己決定ができるよう確認し、困難な場合は表情や仕草などから読みとれるよう努力しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にフェイスシートを中心に情報収集し、初期計画を作成し、入居後は日々の暮らしの中での会話や生活のあり方及びご家族との情報共有を通して確認し、受持がセンター方式も活用しながら詳細な把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の個別ケア記録に24時間にわたり詳細に記録すると共に、変化やアプローチによる反応なども記載し、全職員が気づき高め、把握した情報を共有できるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族参加のケアカンファレンスや面会時のミニカンファレンスを通して意見や情報交換を行うと共に、小さな工夫を日々重ねながらその方に適した介護計画を作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは、適時行い、様式や内容・方法は個々の特性に応じて複数の評価方法を採用し、有効性の検証も含めて実施しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今日の暮らしを作成し、24時間にわたり詳細に記録し、小さな変化も見逃さないよう情報の共有を行うことで、より有効な実践や介護計画の見直しに活用しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院治療が必要な場合、バックベッドを保證すると共に、短期利用により在宅介護者の負担の軽減や他事業所との情報の共有により、新たな展開方法を協議し、より有効なケア内容への発展を支援しています。また、職員同行による自宅訪問も行い、入居者のニーズに対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署とは毎年共同の火災避難及び消火訓練を行い、地域の一時避難所への避難や近隣住民の方による避難活動の補助や文化施設での行事にも積極的に参加したり、養護学校との交流など社会参加の拡大が図れるよう支援し、地域住民の方々との協力体制がとれるよう「荒尾市地域ケアネットワークづくり」の取り組みにも参加しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通い慣れたデイへの参加やなじみの医療機関への同行及び情報を共有しながら家族単位での支援のあり方を協議し、ペットを含めた訪問などで人間関係や地域生活が途切れないよう支援をしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議時、センター長に参加していただき様々な意見や情報交換を行い、認知症ケアや地域のネットワークづくりに関しても協議の上、地域的な展開を図っております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院時には主治医の助言や日々の状況を書面や口頭で詳細にお伝えしたり、看護師がご家族とともに通院介助を行うなど情報の共有を行い、適切な医療を継続的に受けられるよう支援いたしております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活歴・価値観などによりお一人お一人の特性に応じた声かけを行い、自尊心が損なわれないように配慮し、自発語の少ない方や高度の難聴の方にはスキンシップで補う工夫を行っております。また、個人情報に関しても守秘義務に努めています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	起床から就寝までのあらゆる生活場面で自己選択と自己決定を尊重した声かけを行い、承諾を得た上で援助を行っております。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝、あるいは夜間のトイレ誘導も睡眠状態により行うなど常にお一人お一人のペースを尊重して援助を行っています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お好みに応じた衣服やおしゃれが出来るよう支援し、毎月訪問理美容の機会を設けるとともに、いきつけの理美容店にはご家族の協力を得て利用を継続されています。また、女性・男性ともカクテルドレスやタキシードでの記念撮影など華やかなひとときが味わえるような取り組みも行っております。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時には、希望をうかがい旬のものや季節感を取り入れ、庭の収穫物やいただきもの等の新鮮な食材は調理前の段階で見いただき、どんな料理が良いかをお尋ねして行っています。また、好き嫌いは入居前から確認し、代替食品をお出しし、調理・後片付けも共に行っていますが、重度化に伴い参加できる方が減少してきている現状です。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	手作りの果実酒やビール、日本酒などを準備して楽しんでいただけるよう支援しています。また、断酒が必要な方には、その都度ご本人と話し合い、アルコール以外で乾杯をさせていただいております。喫煙に関しては、現在どなたもおられません。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	24時間の排泄パターンやサインを把握し、プライドや安眠を妨げないよう配慮しながら昼夜トイレ誘導を行っております。夜間も眠りが浅い時に声かけをし、タイムリーな排泄援助ができるよう努めています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を原則とし、個人の習慣や体調により隔日の方もおいでになり、お好みの時間や長さ・湯加減に応じて、心身ともにリラックスして入浴が楽しんでいただけるよう支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿った休息、安眠のため、共有スペースにもリクライニングチェアや寝椅子、畳コーナー、こたつ等を準備しております。また、言葉での表現が困難になられた方は、表情や姿勢などにより配慮し、関節拘縮気味の方は就寝前に関節の屈伸他動運動を行い、緊張をほぐした上でお休みいただけるように支援しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できることを見守り評価すると共に、できないことについてはどうしたら可能になるかを常に模索し、日々小さな試みを積み重ねています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人お一人の管理能力やご希望に応じ、ご自身で所持されたり、お預かりし金銭出納帳で共にチェックしております。また、金銭所持に関するご家族の理解・協力が得られるよう、経済状態に配慮した上で、社会参加の機会ごとに連絡を行っております。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者と相談しながら地域の行事、美術展、コンサート、花見など積極的に出かけ、社会参加の機会が拡大されるよう支援しております。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望には可能な限り対応し、また自発的な要望が出やすいよう様々な提案を行い共に出かけています。また、ご家族と共に楽しめる場を設けています。尚、ご家族との外出も支援しておりますが、重度化に伴いご家族による対応が困難になられているケースも増えてきている状況です。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望や必要に応じて電話などの援助を行っております。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族やなじみの方が気軽に訪問できるよう、くつろいで過ごせる場所が居室だけでなく、談話コーナー、和室、ウッドデッキ、庭のベンチなど多彩にあり、お茶を飲みながらゆっくりと過ごしていただけるよう配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックも含めて、身体拘束や行動制限をしないよう全職員が相互確認をしています。また、睡眠薬や抗精神薬などの薬物の使用も主治医と相談しながら、服用されなくても安定が図れるよう努めています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不審者の侵入防止のため夕方6時から翌朝8時まで門を閉めております。また、入居者が中から開けられないような鍵はかかっておりません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は調理活動をしながらかフロア全体を見守る役割とケアや行動を共にしながら寄り添う役割の者が連携しながらお一人お一人の状況把握と安全への配慮に努めています。また、夜間は毎時間の巡回だけでなく、物音に迅速に対応し、プライバシーに配慮しながら排泄の見守りや援助を行っております。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品・危険物などは職員のロッカールームに保管し、刃物も刃先の丸いものは事務所に保管し、入居者個々の管理能力に応じて、ご本人やご家族と協議の上使用していただいております。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止を主眼としてリスクチェックシートを作成し、再発防止策を協議・共有するとともに、安全対策委員会で事故の傾向や対策の検討・検証をおこなったり、法人内外での研修に参加し対応力の向上に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師が中心となって対応し、介護職へ指導していますが、全員が適切に対応できるとは言えません。普通救命講習会(AEDを含む)に多くの職員が参加しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網が整備され、定期的な連絡訓練や火災・自然災害時の避難・対処訓練を実施しています。また、近隣住民の方の協力も得て、共同訓練も行っております。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その都度医師の指示等も加えてご家族への説明、対応策を行っております。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各個人のフェイスシート及び初期計画に記載されており、状態の変化や処方変更時は注意事項を個別ケア記録に記載し、情報を共有しています。軽度の段階での発見により、治療や入院期間の短縮化も図られております。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回の服用は看護師が容器にセッティングし、全職員が服薬の確認を行い、薬の内容や作用に関しては個人ファイルの説明書で確認できると共に、注意点は都度説明しています。説明書に記載されていない副作用は補足しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適切な水分の補給や食物繊維を多く含んだ野菜中心の献立を作成し、適切な運動(ラジオ体操など)身体を動かす働きかけに取り組んでいます。やむをえず緩下剤などを使用する場合も、個々の状態に応じて細かに微調整を行っております。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	モーニングケアやナイトケア時あるいは必要時には、食後などに個々の能力に応じて支援しながら口臭や出血など注意を払い、用具の除菌も定期的実施しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の活動量や体調、食欲に応じ楽しみながら栄養バランスが摂れる様に工夫しています。また、水分補給に関しては起床時、おやつ(2回)、食事時(ほぼ各2杯)、入浴後、就寝前、夜間起床時、ご本人の希望時に水分摂取を支援しています。(居室にポットや保温コップを設置し、夜間にも摂取されています)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食中毒の予防、皮膚感染やインフルエンザ対策を実施すると共に外気浴や体操、栄養バランスなどで体力の向上を支援し、入居者の食前の手洗いに関しても毎食前に実施しています。現在まで、感染症の発症はありません。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	県の通達マニュアルに沿って行い、常に清潔を保ち食中毒の予防に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	緑豊かな自然環境の中、玄関周辺にも花を植え、出入りしやすいよう工夫しています。門扉も8時～18時までオープンにして訪問しやすい環境作りに努めています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋風棟、和風棟の両ユニットとも木を基調とした広く安らぎのある環境の中、それぞれに適した家具や調度品を配し事務的、施設的な印象を排除し、手作りの品などにより雰囲気作りに努めています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ダイニングやリビングのほか、洋風棟の談話室、八畳の和室、廊下の談話コーナーや広いウッドデッキ、庭園や玄関前のベンチなど思いのまま暮らせる空間を提供しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具や調度品により安心した暮らしができるよう努めています。また、ご家族の承諾を得て手作りのカレンダーなどを配し、居心地よく過ごしていただけるよう工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に季節や天候に応じた換気を行い、冷暖房は温度の変化だけでなく入居者の体感温度を基本に行っています。居室は各個人の暑がり、寒がりなどの特性に応じて細かく調整しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの室内空間であり、入居者の身体機能の低下に伴い浴室に手すりを追加し、安全性の確保と自立支援の観点から検討、工夫を行っています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にはそれぞれの目の高さや認知レベルに応じた名札を設置し、夜間トイレ使用時も個々の見当識や認知レベルに沿った分かりやすい表示方法を行っています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候に応じランチやティータイム、また季節に応じソーメン流し、焼肉会、観月会、観桜会や日光浴を兼ねてレクリエーションやゲームなどをウッドデッキで行い、また散歩できる遊歩道があり活用に努めています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑豊かな自然環境の中、季節や地域の恵みを満喫しながら個々の尊厳と共同生活が調和しながら暮らせる。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	白寿園グループホーム
(ユニット名)	洋風棟
所在地 (県・市町村名)	熊本県荒尾市
記入者名 (管理者)	西山睦子
記入日	平成 21 年 1 月 21 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表者が全従業員に理念・方針を伝え、達成状況に応じ事業計画を作成し、全従業員が共有・目的達成に努め、具体的な場面で説明し浸透を図っています。		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全従業員が半年ごとに目標を掲げ、達成状況を確認しながら実現に努めています。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営理念を玄関に掲示し、パンフレットや重要事項説明書に記載し、家族懇談会や見学の際に分かりやすく説明し、入居者に対してはより具体的な説明を機会ごとに行っています。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	不審者の侵入防止やセキュリティの観点から無防備なあり方に疑問を感じ、一部の方のみになっている状況です。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域公民館の活動や文化行事などにも積極的に参加し、地域の方々との交流に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム長が中心となって情報交換や相談に取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘の部分にはすぐに対応し、具体的な改善に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度利用者代表、ご家族代表、市町村職員、地域包括支援センター職員、地域住民の代表、グループホーム代表の参加で開催し、意見交換を行いサービス向上に活かしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体の介護老人福祉施設の人材を中心に積極的に機会を作り、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族懇談会などで事例をまじえて、ホーム長より分かりやすく説明を行っています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で身体拘束の悪影響を話し合い、身体拘束のないケアを実践しています。(地域包括支援センターの役割等を紹介)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>分かりやすい文で明示し、入居時分かりやすく具体的に説明を行い同意を得ています。面会時尋ねられた場合には、その都度事例をまじえて説明を行っています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議には利用者代表に参加して頂き、意見が表せる機会を設けています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>その都度面会時に説明し報告を行っています。金銭管理については出納帳を作成し二人で出し入れを行い、面会時にサインをご家族より頂いています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>何でも相談できる雰囲気作りに努め、年2回家族懇談会を設け、代表者同席で意見を出していただいています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ホーム長を中心にカンファレンスを行ない、ホーム長が代表者との仲介役を担っています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務ローテーションを組んで緊急時には対応できる体制をとっています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在ほとんど異動がなく何名かの離職者はありませんでしたが、とくに入居者への影響はありませんでした。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時の研修は体系づけられ、確実に実施されている。全国大会での研究発表も数回行なっている。段階に応じたフォローアップ研修の開催を行なっていく、資格取得などを通してケアの向上に努めています。</p>	<p>○</p> <p>法人内研修はもとより、他のグループホームとの交換研修や研究発表を現在行なっているが、今後も重ねながら研鑽を図っていきたい。法人内外の研修会に一部の参加ではなく全員が参加できるように努めます。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム職員との交流を兼ねてネットワーク作りや勉強会を行なっています。(ホーム長がキャラバンメイト活動を行なっている。)</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の業務上の悩みは業務カンファレンスや全体会議で改善を図り、大きな変更の際には、必ず試行期間を設け、有用性を検証した上で実施し、ストレスの軽減に努めています。また、職員それぞれの特性や個性を生かして補い合っております。</p>	<p>○</p> <p>今後は、職員対象のレクリエーションや軽スポーツの実施など余暇を利用した福利厚生面での充実も図っていきたいと考えています。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>半年ごとに個人面談を行ない、個々の課題を解決できるように努めています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居希望時、雑談を交えながらご本人がどのような生活を望まれているかをご家族や関係者と協力し、受け止める努力をしています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前にご本人、ご家族、関係者と共に見学や体験の機会を設けています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ずご本人、ご家族と面談し、生活特性を把握した上で主治医や担当ケアマネジャー、サービス提供事業所などからの情報も参考にしてアセスメントを行ない(ホーム長)、入居後は受け持ちにより詳細な情報把握に努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個々の状況に応じて毎日の面会や電話、外出、外泊など心の安定が図れるようご家族、関係者と協力しています。また、他の入居者との交流も職員が仲介に入り、馴染みやすい雰囲気作りに努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日、新聞を読んだり、一緒に昔の歌を唄ったり、踊りを交えた体操を日々の生活の中に取り入れ、喜怒哀楽を共にして支えあう関係を築いています。また、味噌作りや切り干し大根作り等数々の場面を通して、築いてこられた手法や手技を利用者から教えていただいております。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、介護以外の話題も取り入れ声掛けし、電話連絡も行なっています。また玄関に意見箱を設置し、意見・要望を寄せていただくよう家族懇談会の場で説明を行なっています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に近況をお伝えしたり、玄関に写真を掲示し個々の写真をお渡ししています。家族懇談会では映像で確認していただき、より良い関係が築いていけるよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制約はなく、面談やくつろいで過ごせる場所が居室、談話コーナー、和室、ウッドデッキ、前庭、中庭と多彩で楽しんでいただいております。またご本人が行きたいと言われる場所には時間が許す限りお連れするよう努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ゆっくりと交流できるように場所や場面を設定し、あたたかく見守ったり、橋渡しを行なって相互交流が深まるよう援助を行なっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や退去に際しては、安心して療養できる退去先の紹介や確保を支援し、転居に関わる援助や退去後の訪問も行なっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人へのアプローチの中で反応を伺いながら検討をしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中でご本人、ご家族との会話を通じ情報収集を行ないながら把握し、その方らしい暮らしができるよう努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の個別ケア記録に24時間にわたり詳細に記録していると共に、変化やアプローチによる反応なども記載し、全職員が把握するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、業務カンファレンスを開催し、意見交換を行っていますが勤務体制上、全職員が毎回参加する事は困難で事前、事後報告の場合もあります。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは適時に行ない、様式や内容、方法は個々の特性に応じて複数の評価方法を採用し、有効性の確認を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今日の暮らしを作成し、24時間にわたり詳細に記録し、情報の共有を行ない、実践や介護計画の見直しに努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のニーズに応じホーム長が中心となり支援を行なっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署とは毎年共同の火災訓練を行ない、地域の一時避難所への避難を行ったり、他の施設での行事に参加し交流を通して社会参加の拡大が図れるよう支援し、また地域の方達との協力体制がとれるよう「荒尾市地域ケアネットワークづくり」の取り組みにも参加しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の掛かり付けの病院へ同行し、ご家族と相談しながら他のサービスの利用と支援をしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議時、センター長に参加して頂き、認知症ケアや地域のネットワークづくりに関しても様々な意見交換を行い協働に努めています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族との通院介助には主治医の助言や日々の状況をお伝えし、情報の共有を行なっています。また、全入居者が最低月1回は医師の診察と必要に応じた検査が受けられると共に、年1回は健康診断が受けられるよう協力医療機関と協議し、体制を整えています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活歴、価値観などお一人お一人の特性に応じた声掛けを行ない、自尊心が損なわれないように配慮し、自発語の少ない方や高度の難聴の方にはスキンシップで補う工夫を行っています。個人情報についても守秘義務に努めています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	起床から就寝までのあらゆる生活場面で自己選択と決定を尊重した声掛けを行ない、承諾を得た上で援助を行っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝までお一人お一人のペースに合わせて援助を行っています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月、訪問理美容の機会を設け、数名の方は入居者やご家族の希望により個々の行きつけの店を利用されています。モーニングケア時にはその日の希望の服を尋ね確認したうえで援助を行っています。女性の方達にはカクテルドレスでの記念撮影などで恥ずかしさの中で嬉しさと満足感を味わっていただきました。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節感を取り入れ、菜園や庭での収穫物や頂き物など新鮮な食材を入居者の方に見ていただき、どんな調理が良いかお尋ねして行なっています。重度化に伴い以前のようにお手伝いしていただく方が減少しているのが現状です。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	手作りの梅酒、ビール等を準備して楽しんでいただけるよう支援しています。また、たばこについては現在どなたもおられません。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	24時間の排泄パターンを把握し、プライドや安眠を妨げないよう配慮しながら昼夜トイレ誘導を行っています。夜間も眠りが浅い方には声掛けをし、機械的にならないよう努めています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週7日間の入浴を原則とし、個人の習慣、体調により隔日希望の方もおいでになり、個々の希望の調和を図りながら行なっています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿った休息、安眠の援助を行なっています。また言葉では伝える事ができない方に関しては、表情や態度を観察して、バイタルチェックを行ない職員の判断で休んでいただけるよう支援しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる事を見守り評価すると共に、できない事についてはどうしたらできるようになれるかを常に模索し、日々小さな試みを行なっています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人お一人の管理能力に応じて設定し、ご自分で支払いをされる方についても支出入は出納帳で共にチェックし、ご家族の意向により後払いも行なっています。(事前に社会参加の機会ごとに連絡を行なっている。)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者と相談しながら地域の行事、コンサート、花見などに参加し、ご家族へは付き添っていただいたり、写真と共に報告して思い出を共有していただいています。運動会、敬老会、フェスティバルなどはご家族に呼びかけ参加していただいています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望には可能な限り対応し、また自発的な要望が出やすいよう、様々な提案を行ないお連れしています。またご家族との外出にも支援しています。外泊希望の方も最近では短日または外出のみで帰ってこられる方が多くなってきました。(ご家族の対応が困難との理由)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不穏時、ご家族の協力を得ていつでも(24時間)電話での会話ができるよう支援を行なっています。また、四季折々の絵葉書がご家族から届き、職員が入居者の代筆で年賀状、暑中お見舞いをご家族へお出ししています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族がくつろいで過ごせる場所が居室だけでなく談話コーナー、和室、テラス等があり、ゆっくり会話ができるよう努めています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっていませんが、時折スピーチロック的なアプローチも見られます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	洋風棟の玄関を主な玄関として、和風棟の玄関は勝手口として使用しています。(入居者の混乱を防ぐ目的)また、無断外出に伴う事故や不審者の侵入防止のため、ご家族に説明の上で門は夕方6時～翌朝8時までロックをしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は調理活動をしながらかフロア全体を見守る業務とケアや行動を共にしながら記録も傍らで行ない、お一人お一人の状況把握に努めています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品、洗剤などは職員しか出入りできない倉庫に保管し、刃物も刃先の丸いものは事務所に保管。また、入居者個々の管理能力に応じてご本人、ご家族と協議の上、居室や事務所で保管しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告をまとめた上で定例会議や事故対策及び防止検討委員会を開催し、再発防止や対応力の向上に努めています。	○	重度化に伴ない、転倒のリスクが高い方にはさらにご家族と連携を推進し、利用者の安全確保に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師が中心となって対応し、介護職へ指導していますが全員が適切に対応できるとはいえません。ABC訓練また普通救命講習に参加しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網が整備され、定期的に連絡訓練を実施しています。近隣住民の方の協力も得ています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その都度医師の指示等も加えてご家族への説明、対応策を行なっています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各個人のフェイスシート及び初期計画に記載されており、状態の変化や処方変更時は注意事項を個別ケア記録に記載し、情報を共有しています。体調の変化や異変に早期発見で入院期間も短く再入居につながっています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回の服用は看護師が容器にセッティングし、全職員が服用の確認を行い、薬の内容や作用に関しては個人ファイルの説明書で確認できると共に、注意点は都度説明しています。説明書に記載されていない副作用は補足しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適切な水分補給や食物繊維を多く含んだ野菜中心の献立を作成し、適切な運動(ラジオ体操など)身体を動かす働きかけに取り組んでいます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	モーニングケアやナイトケア時あるいは必要時には、食後などに個々の能力に応じて支援しながら口臭や出血など注意を払い、用具の除菌も定期的実施しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の活動量や体調、食欲に応じ楽しみながら栄養バランスが摂れる様に工夫しています。また、水分補給に関しては起床時、おやつ(2回)、食事時(ほぼ2杯)、ご本人の希望時に水分摂取を支援しています。(お一人は居室にポットを設置し、夜間時にも摂取されています。)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食中毒の予防、皮膚感染やインフルエンザ対策を実施すると共に外気浴や体操、栄養バランスなどで体力の向上を支援し、入居者の食前の手洗いに関しても毎食前に実施しています。現在まで感染症の発症はありません。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	県の通達マニュアルに沿って行ない、常に清潔を保ち食中毒の予防に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	緑豊かな自然環境の中、玄関周辺にも花を植え、出入りしやすいよう工夫しています。門扉も8時～18時までオープンにして訪問しやすい環境作りに努めています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋風棟、和風棟の両ユニットとも木を基調とした広く安らぎのある環境の中、それぞれに適した家具や調度品を配し事務的、施設的な印象を排除し、手作りの品などにより雰囲気作りに努めています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ダイニングやリビングのほか、洋風棟の談話室、八畳の和室、廊下の談話コーナーや広いウッドデッキ、庭園や玄関前のベンチなど思いのまま暮らせる生活空間を提供しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具や調度品により安心した暮らしができるよう努めています。また、ご家族の承諾を得て手作りのカレンダーなどを配し、居心地よく過ごして頂けるよう工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に季節や天候に応じた換気を行い、冷暖房は温度の変化だけではなく入居者の体感温度を基本に行なっています。居室は各個人の暑がり、寒がりなどの特性に応じて細かく調整しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの室内空間であり、入居者の身体機能の低下に伴い浴室の手すりの追加、またリフトチェアーの設置など安全性の確保と自力支援の観点から検討、工夫を行なっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にはそれぞれの目の高さや認知レベルに応じた名札を設置し、夜間トイレ使用時も個々の見当識や認知レベルに沿った分かりやすい表示方法を行なっています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候に応じランチやティータイム、また季節に応じソーメン流し、焼肉会、観月会、観桜会や日光浴を兼ねてレクリエーションやゲームなどを行ない、また散歩できる遊歩道があり活用に努めています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑豊かな自然環境の中、季節や地域の恵みを満喫しながら個々の尊厳と共同生活が調和しながら暮らせる。